

編集後記

◇ 令和での最初の正月となりますが、読者の皆様の本年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、1月号では特集として「いも類の新品種紹介」を掲載するのを恒例としており、本号においても新たに品種登録の出願公表がされたもの6品種について、それぞれの育成者に解説頂いた。サツマイモでは「こないしん」(九州沖縄農業研究センター)、「しろほろり」(三好アグリテック(株))、ジャガイモでは「さらゆき」(北見農業試験場)、「しまあかり」並びに「しまクイーン」(鹿児島県農業開発総合センター)、「なつがすみ」(カルビーポテト(株))を紹介するが、いずれもこれまでに無い優れた特性を持つ新品種で、今後広く普及することを期待したい。

◇ 昨年末、10月28日から11月1日までの1週間、例年通り農水省の消費者の部屋で「さつまいも・じゃがいもの週」が開催された。恒例のいも類の実物展示は、農研機構の各センター、道県農業試験場等のご協力を頂き、青果用、加工用、醸造用等のかんしょ25品種、ばれいしょ21品種がそれぞれ展示され好評を得た。5日間を通した来場者は昨年同様の800人程度と盛会だったが、いも類に関心がある方が多く色々な説明を求められた。特に、ある初老の婦人から「戦前に食べた白い色のさつまいもがとても美味しかったが、何という品種ですか？」との質問があり、本誌134号に掲載した「七福芋」のことを思い出し説明したら、そのことだったようで大変喜んで頂いた。

◇ 本号では、調査・研究のコーナーに、現在、九州沖縄農業研究センターで先導プロジェクトとして研究が進められているサツマイモの直播用品種の育種状況を寄稿して頂いた。サツマイモ生産での労働別作業割合を見ると収穫に38%、次いで育苗、定植に34%かかっている。しかし、収穫作業は機械化が進んでいるのに対し、育苗、定植は人力作業に頼っているのが現状である。労働力不足が深刻な中、サツマイモの直播は一つの解決方法として期待したい。

◇ 去る11月17日に、千葉県香取市で「第32回栗源のふるさといも祭り」が盛大に開催された。この祭については本誌No.141の「産地情報」で詳しく紹介して頂いたが、今回も焼き芋広場では、100カ所のみ殻山が作られ、「ベニコマチ」「シルクスweet」が焼き芋にされ4千人に配られたとのことである。昨年、甚大な台風被害を受けた千葉県では明るい話題と言えよう。

(鈴木 昭二)

いも類振興情報 第142号

2020(令和2)年1月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社